

(様式 1-3)

福島県(浪江町) 帰還・移住等環境整備事業計画 帰還・移住等環境整備事業  
等個票

令和 5 年 6 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	207	事業名	被災地域農業復興総合支援事業(畜産施設整備)浪江町 (基金型)	事業番号	(5)-43-45
交付団体	福島県		事業実施主体(直接/間接)	浪江町(間接)	
総交付対象事業費	(488,115)(千円) 12,410,325(千円)		全体事業費	(9,210,480)(千円) 12,410,325(千円)	
帰還・移住等環境整備に関する目標					
<p>&lt;現状&gt;</p> <p>浪江町では、震災前、乳用牛飼養農家が 32 戸で 633 頭、肉用牛飼養農家が 63 戸で 512 頭、合計 95 戸で 1145 頭(農林業センサス 2010)を飼養していた。全農家戸数 1019 戸中、9.3%の 95 戸が畜産に関わっていた。しかしながら、地震及び津波被災や原発災害による長期避難のため、畜産施設・機械の劣化、さらには飼養牛の殺処分を余儀なくされた経験から畜産経営意欲が低下し、震災前畜産農家で牛飼養を再開した者はおらず、町全体の帰還農業者の割合も震災前の 6.6%程度に留まっている。</p> <p>一方、町では水田農業の復活を目指して農業復興拠点の一つとして乾燥調製貯蔵施設を整備し、町民の帰還、農業再開の促進に向けて取り組んでいるところであるが、円滑な営農再開のためには除染により地力が低下したほ場の地力回復を図る必要があることから、耕畜連携を促し、農業者が安心して営農できる持続可能な営農継続システムを確立することは喫緊の課題となっている。</p> <p>&lt;農業振興の方向性&gt;</p> <p>町では農業再生の施策の一つとして大規模酪農施設整備(震災により畜産経営を断念してしまった地元畜産農家等を雇用)を実施し、風評の影響が少ない酪農業の再生を目指している。また、耕畜連携を促すことで、堆肥供給によるほ場の地力回復を図るとともに、水稻や飼料用トウモロコシなど土地利用型作物による営農再開面積の拡大を図る。</p> <p>さらに、浪江町に新規就農する人材を育成するとともに、研究受託によって、大学や企業との連携の促進、交流人口の増加等が見込まれる。</p>					
事業概要					
<p>&lt;本事業で施設を整備する理由&gt;</p> <p>浪江町の農業復興拠点として大規模畜産施設を整備することにより耕畜連携を図り、営農再開、町民の帰還を促進する。</p> <p>&lt;整備内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>施設概要: 搾乳牛舎(A, B, C)3 棟、複合牛舎(D, E)2 棟、搾乳舎(F)1 棟、哺育舎(G, H)2 棟、育成舎(Ia, Ib, J)3 棟、堆肥発酵舎(K)1 棟、堆肥舎(L)1 棟、飼料庫(M)1 棟、機械倉庫(N)1 棟、管理・研修・宿泊棟(P)1 棟、敷料置場(S)1 棟、液肥製造施設(O)1 棟、施設付帯設備</li><li>農業用機械: トラクター(5 台)、ロータリー(8 台)、フォークリフト(ハイスト仕様、2 台) 他 (敷地面積: 259,141.88 m<sup>2</sup>、施設面積: 47,045.03 m<sup>2</sup>)</li><li>畜種: 酪農</li><li>飼養頭数: 経産牛 1,300 頭、搾乳素牛 80 頭/年、肥育素牛 700 頭/年</li><li>処理能力: 生乳 13,000 t/年、堆肥 12,000 t/年、液肥 20,000 t/年</li></ul> <p>&lt;市町村計画等&gt; 抜粋</p> <p>【浪江町復興計画(第三次)】</p> <p>施策 1 農林水産業の再興</p>					

<p>(1) 農業の再開</p> <p>◆町内全域の農地を再生し、農業の再開を推進します</p> <p>《目指す姿と取組》</p> <p>◇畜産業については、畜産業再生の拠点として復興牧場の整備に取り組むとともに、耕種農家との耕畜連携を推進します。</p> <p>《これからの取組》</p> <p>(前略) イ 営農再開の推進</p> <p>(ア) 町内の営農再開が完了するまでの各支援制度の継続 (イ) 営農再開の推進 (ウ) 農業・農村の有する多面的機能の維持 (エ) 耕作放棄地発生防止の強化 (オ) 復興牧場の整備の推進 (後略)</p> <p>【第三次浪江町農業再生プログラム】</p> <p>2. 重点課題に対する成果と今後の見直し (3) 生産基盤の整備 ① 農業施設整備</p> <p>(前略) 畜産を再生することも目的に飼養頭数 2,000 頭規模の研究施設も含めた大規模牧場について申請などを進めている。(後略)</p> <p>主要施策その 3「生産・加工・販売を複合させた新たな経営」</p> <p>(前略) (3) 施策内容 ④ 畜産の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興酪農牧場の着実な整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒令和 6 年度の完成を目指して、国・県などの関係機関と連携しつつ、整備を進める。</li> </ul> </li> <li>・耕畜連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒復興酪農牧場に供給する飼料作物の栽培振興、牧場から発生するたい肥の有効活用を推進する。(後略)</li> </ul> </li> </ul>							
<p>当面の事業概要</p> <p>&lt;令和 3 年度～令和 4 年度&gt; 建築実施設計 488,115 千円</p> <p>&lt;令和 5 年度～令和 7 年度&gt; 建築工事 9,848,422 千円、工事監理 199,100 千円</p> <p>機械設備 1,874,688 千円</p>							
<p>地域の帰還・移住等環境整備との関係</p> <p>大規模酪農施設を整備することにより、被災休業酪農家が本施設に従事するなど、酪農業の再開・復興が見込まれる。なお、県酪農協では、飼料生産に特化した生産組織等の立ち上げを進めることで、農業地域での就農機会の創出が期待される。</p> <p>また、自給飼料は耕畜連携に伴う地元産の利用を予定しており、R4 年までに 718ha (耕作者 168 名) で農地利用のマッチングが進んでいることから、さらなる農業者の帰還が期待される。</p>							
<p>関連する事業の概要</p> <p>○効果促進事業 第 33 回申請 造成設計・工事 1,627,491 千円</p>							
<p>※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。</p>							
<p>関連する基幹事業</p> <table border="1"> <tr> <td>事業番号</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交付団体</td> <td></td> </tr> </table>		事業番号		事業名		交付団体	
事業番号							
事業名							
交付団体							
<p>基幹事業との関連性</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>							

発行の五万分の一地形図を複製したものである。  
(承認番号昭 東復 第 号)

# 位置図(浪江町大字棚塩)

位置図

計画位置

浪江町役場位置

